

#### 4) 整備の状況

以下にアキテーヌ沿岸地域の整備状況を紹介します。解説の手順は次のとおりである。

##### (1) ケース・スタディ：整備主要単位9の整備状況

###### ①各観光拠点の整備状況

###### ②カップブルトンにおける協議整備区域による沿岸整備

##### (2) 整備主要単位1～8の整備状況

##### (3) 伝統的沿岸観光地の高価値化

ちなみに、紹介させていただく整備状況は特務機関が従事した最終段階におけるもの、すなわち当機関がその任務を終えた1988年12月末時点での状況である。なお、特務機関により報告されている方法にならない、整備の規模は、ベッド数及び総床面積により示した。

全体として整備は、小さな事業の連鎖によりなされていることに気付かれるであろう。そこに通底しているのは、“接ぎ木”、“開発の芽”という整備手法である。

##### (1) ケース・スタディ：整備主要単位9の整備状況（巻末地図5参照）

###### ①各観光拠点の整備状況

この整備単位では、整備大綱において予定された4つの主要な観光拠点が実施に移された。すなわちオスゴールーカップブルトン、ポールダブレ、メサンジュ、モリエッツの各観光拠点である。これらは収容力の大きさ及び提供される観光施設の多様さの観点からしてランド県における最初の観光複合体を形成するものである。

###### ・オスゴールーカップブルトン

オスゴールとカップブルトンは二つの異なるコミューン（市町村）であるが、その境界に当たるブレとブディゴの二つの川とオスゴール湖の水路の合流点附近（現在のレジャー用港の周辺）は、観光開発に伴って、1970年の時点で既に2つのコミューンの中心地でありながら活気のない地区となっていた。

また海岸線近くの“カップブルトンの淵（Gouf）”の名で知られている海底の谷間の存在は、とりわけランド県の海岸線第一のレジャー用の港の設置にふさわしい条件となっていた。

以上2つの状況を踏まえ、次の3つの目標を持った整備が計画され、実施に移された。

① カップブルトンに海洋レジャー用の港を建設する。

② 港の周囲に道路網、下水道網の再編成を伴う宿泊施設、商店街、公共施設の整備を行い、オスゴールとカップブルトンという2つのコミューンの真の中心地を開発する。

③ 内陸部に港周辺地域の整備を拡大する。

現在では港湾事務所を伴う900艘の収容力を持つ港が完成しており、必要があれば200艘分の拡張も可能である。

カップブルトンにおいては協議整備区域（ノートルダム地区、南ペーシュリ地区、北ペーシュリ地区、南東ペーシュリ地区の各協議整備区域）の手法により、多目的市町村事務組合(syndicat intercommunal à vocation multiple:S. I. V. O. M.)により整備されている宿泊施設の計画は、8万㎡以上の総床面積に6000ベッドの収容力が予定されており、すでに4分の3が整備されている。この外に1500ベッドの収容力を持つサーブル地区協議整備区域の整備がカップブルトンのコミューンにより行われた。（②カップブルトンにおける協議整備区域による沿岸地域整備 参照）

また以下のような社会基盤の再編成の計画が認められた。

- － オスゴール湖の水路とプディゴ川に掛かる2つの橋の建設を含む港周辺地区を取り巻く環状道路の建設。
- － カップブルトン、オスゴール、セニョス全体を迂回する道路の建設。
- － オスゴールとカップブルトンの下水道網をカップブルトンの南部に建設された22,000人分の処理能力を持つ新たな処理施設に接続すること。
- － さらに、多目的市町村事務組合の一員であるセニョスは、プノン地区の観光拠点の施設（特に海水プール）を建設し、最近では18ホールのゴルフ場の整備のために特務機関の補助金を活用した。

この観光拠点における総額1億3000万フランの工事に対する特務機関の財政的補助は4,500万フランに上った。



写真：オスゴール湖、湖自体が一つのリゾートである。



写真： 海洋レジャー用の港の入り口（カップブルトン）。大西洋に開けている。

## ・ポールダブレ

ポールダブレとは、アドゥール川の古い河口に建設された50haの海水湖の名称であり、同時にこの湖を中心にした新たな観光拠点名でもある。海水湖は2メートルの水位を可動水門により塞ぎ止めている。なお、この観光拠点は、スストンとヴィウ・ブコの2つのコミューンに跨がっている。

この湖の周辺には、12,000ベッド（うち3,000ベッドは中間所得者層向け）の観光宿泊施設群を開発しなければならなかった。

公共施設の工事施工は、スストン、ヴィウ・ブコ共同市町村事務組合が行った。当事務組合の長は、3年の任期で2つのコミューン（スストン及びヴィウ・ブコ）の長が交代でつとめる。

事業は総面積250haに及び、2つの協議整備区域からなっていた。

第1期の協議整備区域（1977年11月区域制定）はランド県観光整備会社（Société d'Aménagement Touristique des Landes:SATEL）に施業権設定（②カップブルトンにおける協議整備区域による沿岸地域整備 参照）がなされた。施設の計画は総床面積80,151㎡であり、内訳は6,100ベッドと総床面積5,595㎡の商業施設である。

第2期の協議整備区域（1984年9月区域制定）は165haであり、予定収容量は6,000ベッド、総床面積75,000㎡、同じくランド県観光整備会社に施業権設定がなされた。

事業は現在かなり進捗しており、上下水道計画は整備され、第1次の社会資本整備は完了した。例えば、都市再整備に係る施設（道路網、公共空間）の80%が整備され、ヴィウ・ブコ、スストン共同の施設の大部分（体育館、多目的ホール、テニス・センター、2つのコミューンを繋ぐサイクリング道）が整備されたのである。

これらの事業に、特務機関は5,700万フランを助成した。この助成額のうち、水流に係る計画（湾の浚渫、スストンとメサンジュの流水の処理、水量調節と護岸工事）は80%が特務機関の出資によるものであり、3,200万フランに上った。

一方、特務機関は観光事務局（Secrétariat au Tourisme）の協力のもとに、大衆向け2,250ベッドの建設に取り掛かった。特務機関による助成は3,600万フランであり、総額1億3,000万フランの投資がなされた。

建設された宿泊施設はポールダブレ全体では1988年末に着工中のものを含めて6,400ベッドになる。



写真：海水湖ポールダルのにぎわい（写真上）及び第1期の協議整備区域の整備により形成された商業区域（写真下）

## ・モリエッツ

この観光拠点における事業は、総面積421haの協議整備区域により実施された。この協議整備区域は、世界的に著名な建築家ラルフ・アースキンによって構想された。

観光宿泊施設の計画は12,000ベッド（うち4,000ベッドが整備済み）であり、宿泊施設と商業施設の総床面積は150,000㎡に相当する。

この事業の主要な特色は、通年の利用のために構想されたスポーツ施設の重要性にある。すなわち、

- － テニス・センターに関しては、最終段階では21コート（うち4コートは室内）が整備される予定であり、現時点では11コート（うち2コートは室内）が完成している。
- － 整備の終了した水準の高いゴルフ場は、9ホールの練習用のコースと国際的トーナメントの行われる18ホールのコースの2つの部分からなっており、アメリカのゴルフ場設計師ロバート・トレント・ジョーンズにより一体として設計された。
- － テニス・センター、ゴルフ場併用のクラブハウス、アーチェリー競技場は、完成済みであり、周辺のサイクリング道路網も一部完成し、供用が開始されている。

1977年6月30日に発意された協議整備区域は1980年6月24日に県地方長官により事業設定の決定がなされた。整備施工主は、ランド県（95%出資）とモリエッツ共同による混成事務組合であり、当混成事務組合はランド県観光整備会社に施業権を設定し整備を行わせた。

また、主要な公施設の管理は、モリエッツ観光拠点管理会社(Société de Gestion de la Station de Moliets: SOGEM)が行っており、この混合経済会社もランド県が筆頭の出資者である。

特務機関の助成額は、1988年末で2,600万フランに上っており、これは7,000万フラン相当の第一次の市街地整備の施設計画の実現を可能にした。

1983年にはじまった宿泊施設の建設と販売は、床面積50,000㎡以上の規模でなされており、うち10,000㎡は1984年夏から機能している800ベッドのホテル及び準ホテル群（ホテルと同様のサービスが受けられるアパート、マンション）と特務機関が4,200万フランの助成を行った500ベッドの大衆観光用の宿泊施設村である。

## ・メサンジュ

整備大綱で計画され、コミューンの直営で行われたこの事業は、小規模な地域で構想された。32ha、3,000ベッド（うち500ベッドが整備済み）の計画である。モリエッツとポールダブレの間に位置し、この地区の宿泊施設の様式を多様化させながら整備主要単位9の集積を補完するものである。



写真：モリエッツのテニス・センター、遠景に見える屋根はテニス・センターとゴルフ場併用のクラブハウス。（写真上）

モリエッツのゴルフリゾート、宿泊施設群がグリーンに面したいわゆるフェアウェー・フロントのリゾートになっている。（写真下）

## ②カップブルトンにおける協議整備区域による沿岸地域整備

ランド県の1コミューン（市町村）であるカップブルトン（1990年調査時点 人口5089人、フランスのコミューンの単純平均人口は1千5百人強であり、当コミューンは比較的規模が大きいものに属する。位置については巻末地図参照。）においては、アキテーヌ州における沿岸地域整備の枠組みの中で、協議整備区域の手法が積極的に活用された。

この協議整備区域の制度は都市計画上の課題に対応する次のような特徴を持っている。

1. 土地の整備から上物の建設までを一体的に行うことが可能である。
2. 事業区域内における既存の都市計画規制（土地占用プラン等）の適用を排除し、一定の手続により事業計画に適合した都市計画規制を新たに定めることが可能である。
3. 公共施設の負担に関して、事業ごとに個別の負担方法を定めることが可能である。
4. ①公法人（市町村等）の直営、②公法人が公的整備機関へ委任、③公法人が公的機関もしくは混合経済会社（いわゆる第三セクター）へ施業権設定、④公法人が契約により公法人または私人への委託、と言うように事業実施方式に選択の幅がある。（なお、協議整備区域の事業を発意する主体は、事業実施を担当しうる主体の場合と異なり私的主体を含まず、公的主体に限られる。）

当コミューンにおいては、次の5つの協議整備区域が実施に移された。

それぞれの協議整備区域の名称、整備発意主体、区域制定については、以下のとおりである。

なお、1982年から1990年にかけての当コミューンの人口増加率は5.2%であり、同時期のフランス国内の人口増加率4.2%を1.0%上回っており、さらに人口の増加が顕著であると言われる沿岸部26県の都市部人口の同時期の増加率4.7%と比べても0.5%高い値となっている。カップブルトン役場の都市計画主任マルコ氏は、「人口という総合的な指標の伸びが堅調であることは、カップブルトンにおける沿岸地域整備の成功を何よりもよく説明している」と語っていた。

### 1. 名称：ノートルダム地区協議整備区域

整備発意主体：カップブルトン、オスゴール、セニョス、ラベンヌ多目的市町村事務組合

区域制定：1975年6月10日の大臣アレテにより設定

### 2. 名称：南ペーシュリ地区協議整備区域

整備発意主体：カップブルトン、オスゴール、セニョス、ラベンヌ多目的市町村事務組合

区域制定：1975年6月10日の大臣アレテにより設定



3. 名称：北ペーシュリ地区協議整備区域

整備発意主体：カップブルトン、オスゴール、セニョス、ラベンヌ多目的市町村  
事務組合

区域制定：1975年12月1日の大臣アレテにより設定

4. 名称：サーブル地区協議整備区域

整備発意主体：カップブルトン

区域制定：1976年11月24日の県地方長官アレテにより設定

5. 名称：南東ペーシュリ地区協議整備区域

整備発意主体：カップブルトン、オスゴール、セニョス、ラベンヌ多目的市町村  
事務組合

区域制定：1980年6月9日の県地方長官アレテにより設定

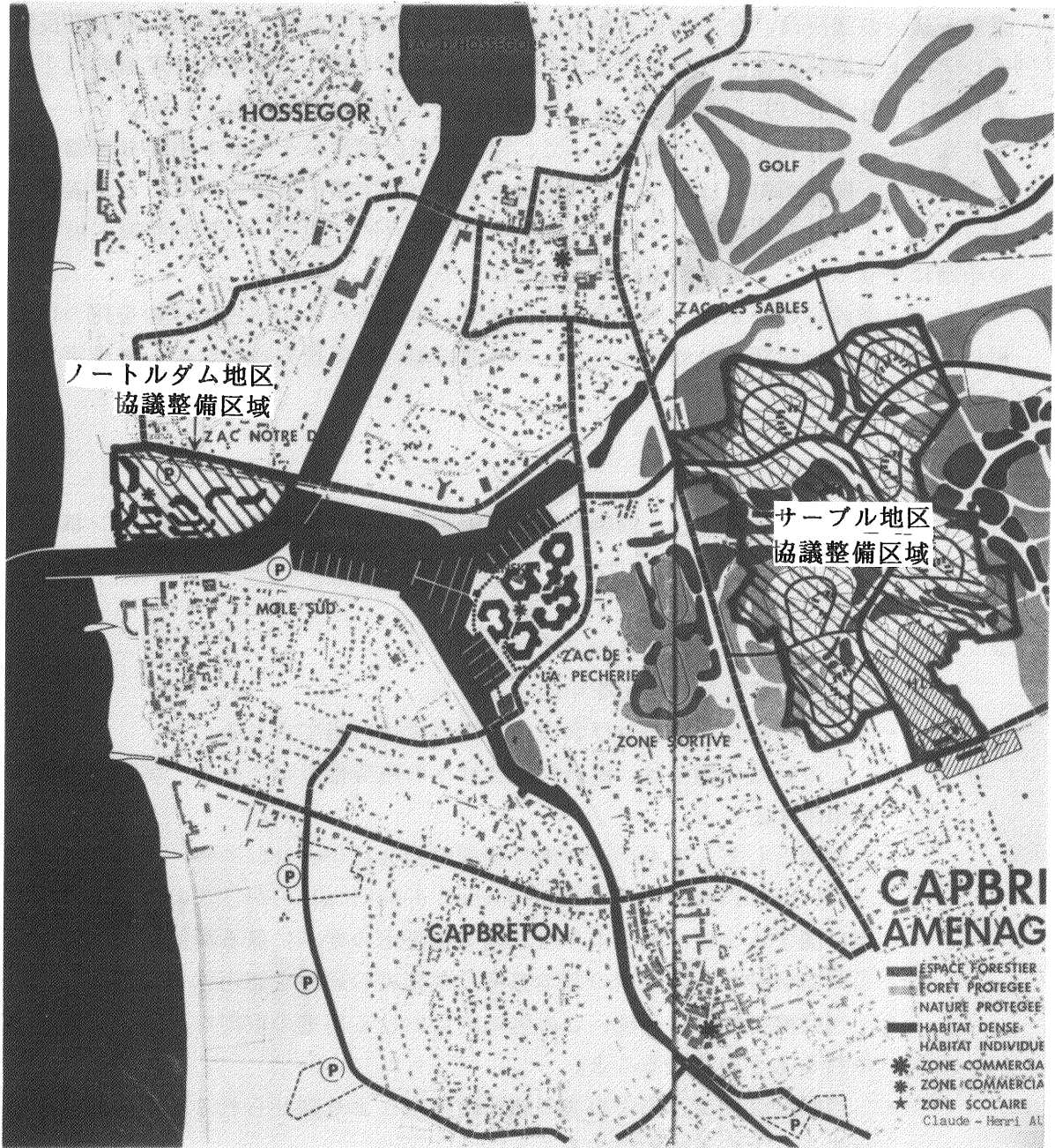
以下、サーブル地区協議整備区域について協議整備区域指定の手続きを追い、その後同協議整備区域及びノートルダム地区協議整備区域について整備の状況に触れる。



← ノートルダム地区  
協議整備区域

写真：カッブルトン全景。ノートルダム地区協議整備区域は写真右上部分。（サーブル地区協議整備区域は写真中に含まれていない—写真よりさらに手前部分—）レジャー用港沿い（写真では港のすぐ下部分）の高層集合住宅群は一連のペーシユリ地区協議整備区域による整備である。

サーブル地区協議整備区域、ノートルダム地区協議整備区域位置図（太線枠内の斜線部分）



## ○サーブル地区協議整備区域

### a. 協議整備区域に係る手続き

まずは、協議整備区域の事業設定及び実施条件決定に係る手続きを見ていく。

なお、手続きのうち、協議整備区域指定の申請に係る議会の議決（事業設定）、整備実施関連文書及び図面に係る議会の承認（実施条件決定）、施業権設定の概要を承認する議会の議決は、全て1976年4月7日になされており。その後、県地方長官アレテによる協議整備区域指定（1976年11月24日）、施業権設定協約（1976年11月25日）、公示（1977年3月）と手続きがなされていく。

ちなみに、1985年の法律によって、協議整備区域及びその他の重要な整備行為に先立って、関係市町村はあらゆる利害関係者との間で事前協議を行うことが義務づけられた（1985年7月18日の法律729号）ため、現在では協議整備区域指定の申請に先立って、この事前協議が必要となっている。

また、事業設定の決定は、地方分権化の結果、承認済みの土地占用計画を持つ市町村においては市町村議会の権限とされ、その他の場合は県地方長官によって設定されることになった。

### イ. 事業設定に係る手続き

(1) 1976年4月7日、協議整備区域指定の申請に係るカップブルトン議会の議決。

議決事項は次のとおり、

カップブルトンの約58haの区域について

- 協議整備区域の指定を申請すること。
- この区域は、住居及び学校施設群の用途に当てられること。
- この区域の施工は、混合経済会社への施業権設定により、実施されるよう申請すること。
- 原則として、アキテーヌ施設整備県際会社(Société Interdepartementale d'Équipement d'Aquitaine)が、この地域の事業実施に関する文書・図面よりなる施業権設定の要求に係る契約に同意すれば、当県際会社へこの区域の敷地整備及び施設の建設を認可すること。
- 当県際会社は、今後、この区域内における用地の取得を行う権限を付与されるよう申請すること。
- 当県際会社は、先ず事業の施業権設定により課せられる全ての義務を履行することを予め約束すること。
- 施工業者の便宜を図るため、地方建設整備税(taxe locale d'équipement)の適用の区域から除外するよう申請すること。

(2) 1976年11月24日、ランド県地方長官アレテによる協議整備区域指定。

(3) 1977年3月14日～同3月30日、協議整備区域の整備計画に係る関連文書及び図面の公示。

公示期間の最終の3日間は、役場において、意見聴取委員(commisnaire enquêteur)が住民からの疑義に応える。

協議整備区域の指定令は公示手続きを経て効力を発する。

ロ. 実施条件決定に係る手続き

(1) 1976年4月7日、整備実施関連文書及び図面に係るカップルトン議会の承認(当文書及び図面は、アキテーヌ施設整備県際会社により提示された。

これらは次のものより構成されている。①協議整備区域内で、土地占用計画に代わる新たな都市計画プランである区域整備計画-Plan d'Aménagement de Zone: PAZ-、②施設整備計画及び施設整備に係る公的助成の期日とその支払い方法、③収支見積り)。なお、これらは県地方長官へ上申された。

(2) 1976年4月7日、施業権設定の概要を承認するカップルトン議会の議決。

(3) 1976年11月25日、施業権設定協約

当協約においては、事業の損失を最終的に負担するのは、混合経済会社(アキテーヌ施設整備県際会社)の行為によらない事業の変更によって生じた場合を除いては、混合経済会社と定められた。

また、税負担分を差し引いた後の事業による収益は、発意主体(カップルトン)と混合経済会社とで折半されるものとされた。

ちなみに、協議整備区域の事業の実施方式は、先述のように①事業を発意した公法人が直接実施する場合、②事業を発意した公法人からの委任によって、公的整備機関が実施する場合、③事業を発意した公法人から施業権設定を受けた公的機関もしくは混合経済会社が実施する場合(当事業はこの方式である)、④事業を発意した公法人から契約により委託を受けた公人または私人が実施する場合があるが、事業の損失を最終的に負担するのは、①、②の方式では事業を発意した公法人、③の方式では当事業のように施業権設定協約において定められ、④の場合は整備者である。

また、協議整備区域の事業は、しかるべき公共施設の工事が完了した後に、事業設定の決定を行った市町村の議会、または県地方長官による確認及びその公示によって正式に終了させることができる。協議整備区域の事業が終了すると協議整備区域に適用されていた区域整備計画は消滅し、従来の土地占用計画に統合される。また、地方建設整備税の適用除外措置も終了し、協議整備区域によって整備された区域は市町村の他の地域と同様の都市計画上の制度が適用されることになる。

## b. 整備の状況

区域指定：サーブル協議整備区域は1976年11月24日の県地方長官アレテにより指定された。

対象区域面積：58ha

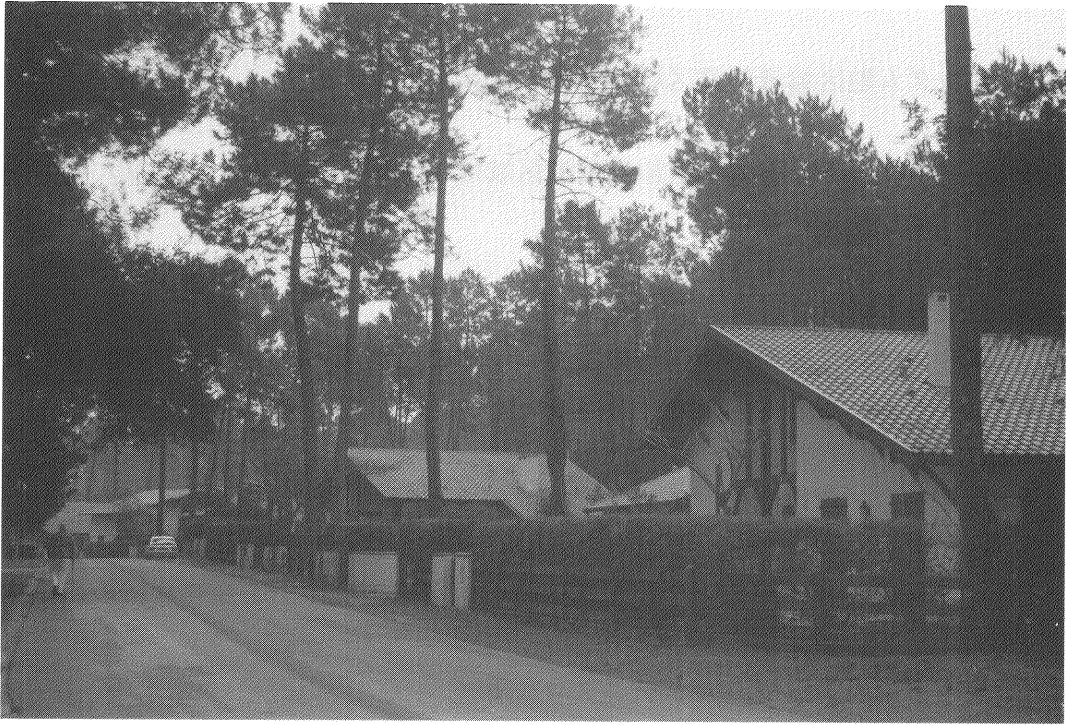
協議整備区域の構成：

サーブル地区長期整備区域においては、主に個人向け住宅の整備が行われた。整備プログラムは、416戸の個人向け住宅を整備することとし、その内訳は以下のとおりとされた。

- 267戸の個人向け住宅、その1区画は約800㎡
- 64戸の集合住宅
- 85戸の低家賃住宅(H.L.M.:Habitation à Loyer Modéré)
- 1000㎡の商業区画
- 幼稚園、小学校からなる学校地区



写真：学校地区内の小学校（入り口）



写真：サーブル地区協議整備区域内住宅。一戸建ての物（写真上）とセミ・デタッチト形式のもの（写真下）。

○ノートルダム地区協議整備区域の整備の状況

区域指定： ノートルダム地区協議整備区域は1975年6月10日の大臣アレテにより指定された。

対象区域面積：7.41ha

協議整備区域の構成：

協議整備区域は4つの建築可能なブロックと公共スペースにより構成される。

ブロックA：収容能力 470ベッド

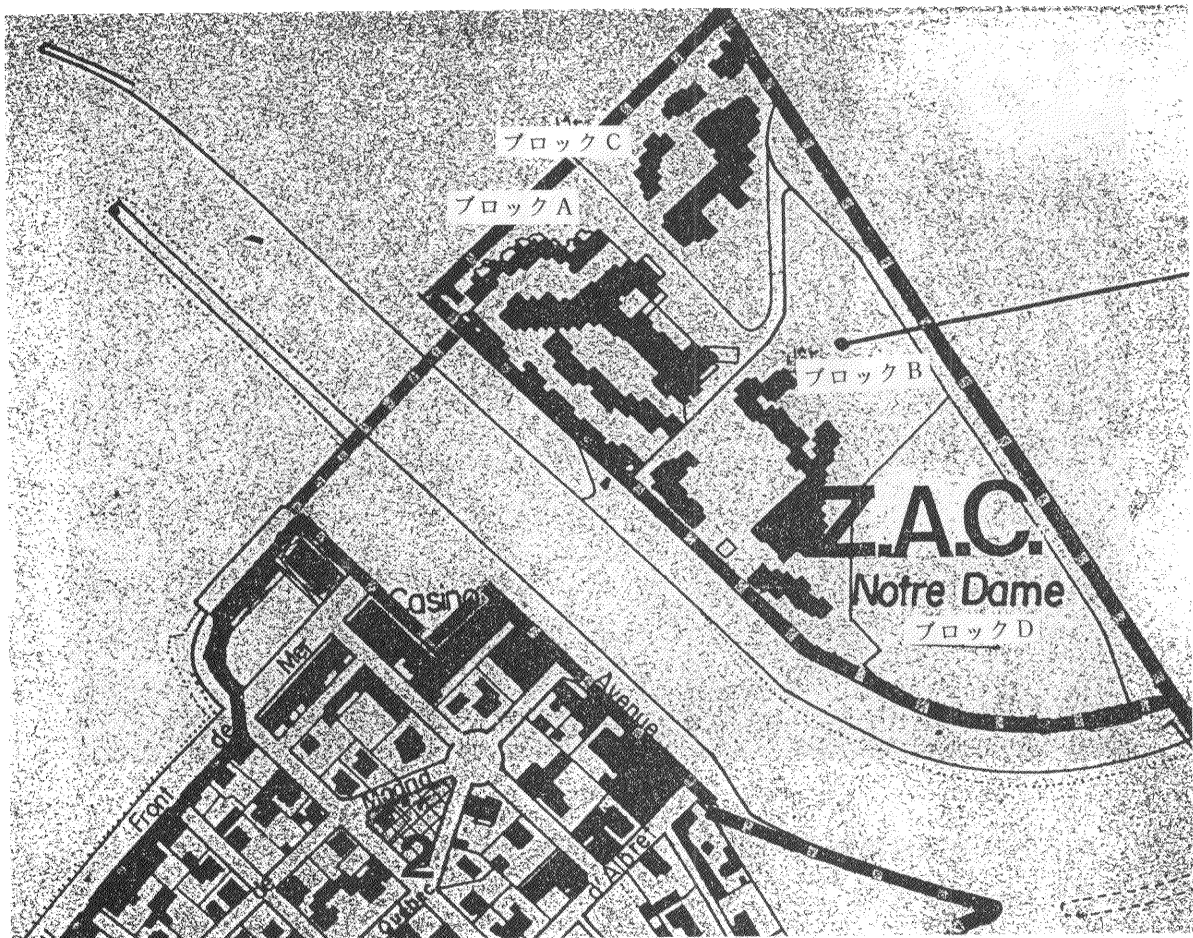
ブロックB：収容能力 450ベッド

ブロックC：収容能力 280ベッド

計 1200ベッド 及び 2400㎡の商業空間

ブロックD：収容能力 7550㎡の居住空間 及び 1000㎡の商業空間と  
遊休地

レジャー施設群：プール、テニスコート







写真：ノートルダム地区協議整備区域。レジャー用港、海に近くバカンスでの利用を目的としたアパートが主体である。

## (2) 整備主要単位1～8の整備状況

ケーススタディで紹介した整備主要単位9を除く、整備主要単位1～8の整備状況を見ていく。

特務機関が整備に取り組んだ期間は約15年間であり、この間に300kmという広範な沿岸地域で平行して整備を実施していった。したがって整備主要単位ごとの進捗状況には差が生じている。(たとえば、最初に紹介する整備主要単位1内のル・ヴェルドンは、本格的な整備は開始されておらず、また整備主要単位8のミミザンは伝統的沿岸観光地の高価値化の計画が導入されたばかりである。)

以下は、アキテーヌ沿岸地域整備の初期段階において行政側(特務機関)が実施した各整備主要単位の整備の方向づけの概要を跡付けたものである。

### 整備主要単位1：ル・ヴェルドン、スラック(巻末地図1参照)

この整備主要単位は、アキテーヌ沿岸地域の北端に位置し、スラックとル・ヴェルドンの2つの整備拠点をもつが、ル・ヴェルドンは現在、整備の準備段階として社会資本整備に取り組んでおり、本格的な整備は今後に待たれている。

スラックにおいては、多くの重要な施設が、特務機関による、1972年から1982年間の1,250万フランの財政的援助により建設された。

これらの財政的援助は、特に次のような施設に振り分けられた。すなわち、道路網、スラックの下水処理施設を含む下水道、上水道、12面のテニス・センター、515人の宿泊者収容力のあるバカンス村の改修である。

海洋のウォーター・フロントの再整備に関する調査は、1987年に取り組みはじめた伝統的沿岸観光拠点の高価値化の計画に活かされた。(※(3)伝統的沿岸観光地の高価値化、スラックの部分参照)

ル・ヴェルドンにおいて本格的な整備はまだこれからであるが、沿岸地域整備の大綱において計画された事業は、次の2つの目的を持っていた。

- － アキテーヌ沿岸地域の観光開発にメドック岬地方を組み入れる。(この目的は、ル・ヴェルドン港周辺の工業地区整備があまり順調でないだけに、今日より多くの価値を持つことになった。)
- － この地域の経済的な脆弱性を克服するために、レジャー用港を兼ね備えた大西洋に面した新たな港を整備する。ル・ヴェルドンは、この見地からすると、大西洋に直接アクセスでき、しかもジロンド河の河口に航行できる可能性から、類い希な立地条件にある。

ル・ヴェルドンの整備は、大綱に盛り込まれたもののうちまだ取り組まれていない最後の大規模な事業とすることができる。

先行する調査は、450艘分の外洋に開けたレジャー用港の建設とこの港の周囲に宿泊施設を集積させる地区の建設を提示している。なお、このレジャー用港は将来は800艘分の停泊地を提供することができるとされている。また計画された宿泊施設用地区(45ha)の大部分の土地の所有者は、ル・ヴェルドンのコミューン自体である。

先行する調査において取り上げられた整備の主要な事業は以下のとおりである。

- － 魅力のある景観を保存し、整備することによる付加価値化。
- － レジャー用港の建設を伴う整備事業。
- － 5千から6千オーダーの観光客用宿泊施設側のニーズに応えること。
- － 1,000ベッド程度の通年で利用できる宿泊施設の整備。
- － 市街地にふさわしい公共施設の整備。
- － 観光客向けの必要なサービス網の構築

これらの事業の実質的な開始を待ちながらも、特務機関はすでに殊に将来の整備区域のために上水供給と下水道の分野において事業に取り掛かっているほか、ル・ヴェルドン岬において公共スペースの確保を始めている。

## 整備主要単位2：ウルタン、ノジャック（巻末地図1参照）

整備主要単位2の観光整備は、以下の観光拠点を含んでいる。

- － ノジャックから沿岸のパン・セックにかけてのキャンプ場と簡易宿泊施設（次々頁写真参照）の整備地域。
- － ウルタンからウルタン・プラージュ、内陸湖岸西岸のピッケロ、内陸湖岸東岸のウルタンの市街地に近いウルタン・ポーの3つの観光整備地域

ウルタン・ポーで現在実施されている事業は、2kmに及ぶウルタンーカルカンとウルタン市街地の間、55haの区域で着工されており、その宿泊許容量は、54,000㎡の総床面積に約5,000ベッド（うち2,400ベッドが整備済み）が設置される予定である。特に強調されるべきは、区域の70%が公共施設（レジャー用港、水浴場、幼児・子供の遊び場など）に確保されていることである。

アキテーヌ州余暇・観光協会(Association pour les Loisirs et Tourisme en Aquitaine)によって先導された事業の企画は、宿泊施設の75%を中間所得者向けに予定しており、将来の観光拠点のために考慮されるテーマとして次の2つをあげている。

- － 幼児と子供
- － 水上スポーツ特にヨットセーリング

事業が実施される土地は、沼地の地域であった。このため1983年6月に着手された第一期工事は、敷地の一部を盛土し、レジャー用港（次頁写真①）、進入水路、内陸湖の水浴場を浚渫し、子供達のために内陸湖に島（丸太で簡易な建築物を整備するなどして子供が自由に遊べるようにしてある。次頁写真②）を造成し、この島を保護す





写真：簡易宿泊施設(habitat léger)。これは木材とビニールテントを使用したものであるが、他に様々なタイプがある。

るため湖の岸に沿ってさらにもう一つの島（前々頁写真 ③）を造成した。

公共施設の工事施工は、ジロンド県とウルタンが5割ずつを出資した混成事務組合によりなされた。

特務機関による投資額は、1988年末時点で3,200万フランに上っており、事業費総額は6,400万フランとなっている。

この整備主要単位における事業は現在着々と進行中である。

港を浚渫した土によって6haの子供の島を造成する事業は終了した。植栽の大部分、殊に水生植物の植栽は、既に実施された。

### 整備主要単位3：カルカン、ラカノ（巻末地図1参照）

カルカンの観光整備は、大西洋岸のカルカン・プラージュとウルタンーカルカン内陸湖畔のモビュイッソンの街の間に展開した。1969年に建設されたボンバンヌのジロンド県立スポーツ・余暇施設群は、スポーツとカルチャーのための最初の核を形成したが、整備事業の実施により充実強化されている。なおモビュイッソンには、アール・エ・ヴィ（芸術と生活）という名称の創造的な休暇を過ごすためのヴァカンス村もある。

整備事業は、大西洋とウルタンーカルカン内陸湖の間の松林内の137haの敷地に6,600ベッド（うち6,000ベッドが整備済み）の観光施設群を建設することを含んでいる。宿泊施設の大部分（3,800ベッド）は大衆向けであり、ボンバンヌのジロンド県立スポーツ・余暇施設群と連携しスポーツを楽しむことを目的とした観光拠点としての使命を持っている。

ラカノの事業（アルディルーズ協議整備区域）は、ラカノの観光拠点の全体的な整備の一部をなしている。

大西洋とラカノ内陸湖間の主に松林内で実施されたこの整備は、観光開発の核であるラカノ・オセアンにより形成された活動の拠点とラカノ内陸湖畔のムチックのボート停泊地を中心に行っている。

この事業は、主要な二つの地区に建築された総床面積253,000㎡に相当する約22,000ベッド（うち9,000ベッドが整備済み）の収容力を持つ観光施設群の整備を含んでいる。

主要な二つの地区とは、

- － ラカノ・オセアンの市街地に統合された沿岸部地域
- － 松林内のラカノ・オセアンの東部の400haに広がる内陸部地域、ことに今後27ホールに拡張される18ホールのゴルフ場周辺の人家が連なる地域。

#### 整備主要単位 4～6：アルカッション湾周辺（巻末地図2参照）

アルカッション湾周辺の整備大綱は3つの目的を有していた。

- － 湾岸部の都市計画に関して、湾に沿った線状の開発を制限する。
- － この整備単位において大きな欠点となっているあらゆる種類の施設計画に取り組む。
- － 大衆向けないし社会的性格を有する宿泊施設に限定した観光事業を実施し、従来ポルドーに近いこの地域で従来から際立っていた別荘の分譲という伝統的な開発に対位する。

第一の目的は次のように言い換えられる。

- － 規制措置：既存の市街地の中の緩衝緑地(coupures vertes)の考え方を活かした都市計画文書（都市整備基本計画、土地占有計画）の策定、マンボアのマリナーのような無秩序な計画に反対すること、1980年のジロンド県における主任建築・都市計画家の配置に先立ち市町村に対し建築の助言をすること、アルガン礁、オワゾ島、レイル三角洲、レージュの沿岸牧場の自然保護区(réserve naturelle)の創設。
- － 土地対策：自然保護の目的で土地整備・都市計画国家基金(Fonds National d'Aménagement Foncier et d'Urbanisme:F.N.A.F.U.)の名義で約500haの地域が獲得された。その後、これらの土地の大部分は、沿岸地域保全機関(Conservatoire du Littoral)により買い取られた。当機関は、さらに、湾周辺の470haを自然環境の保護のために買収した。

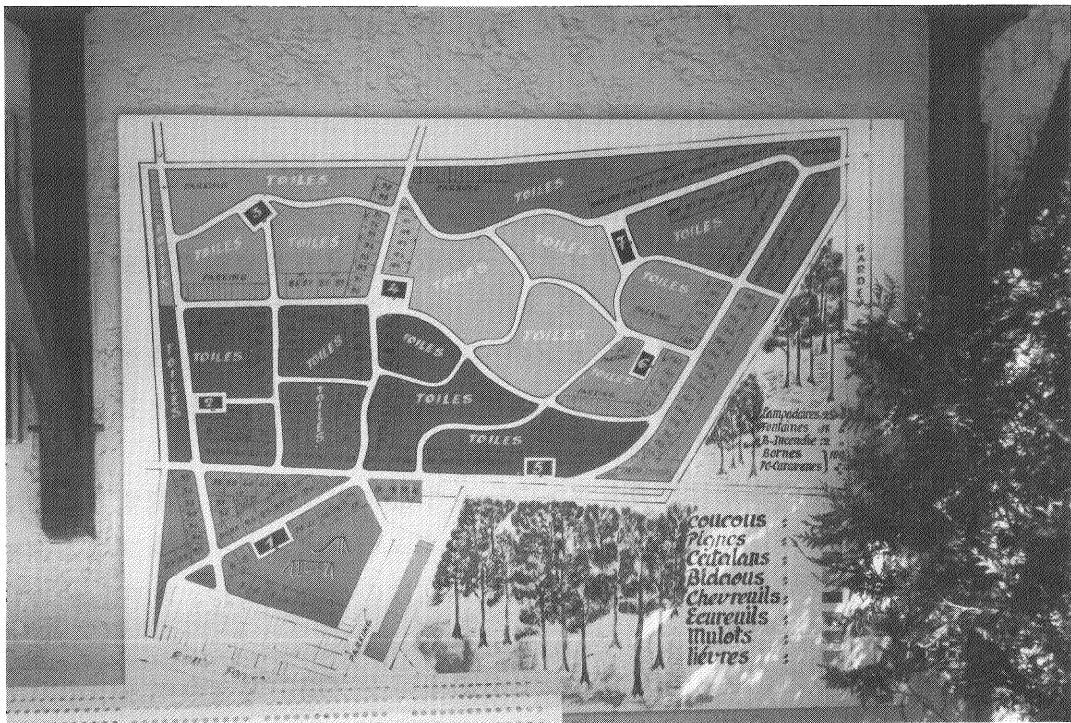
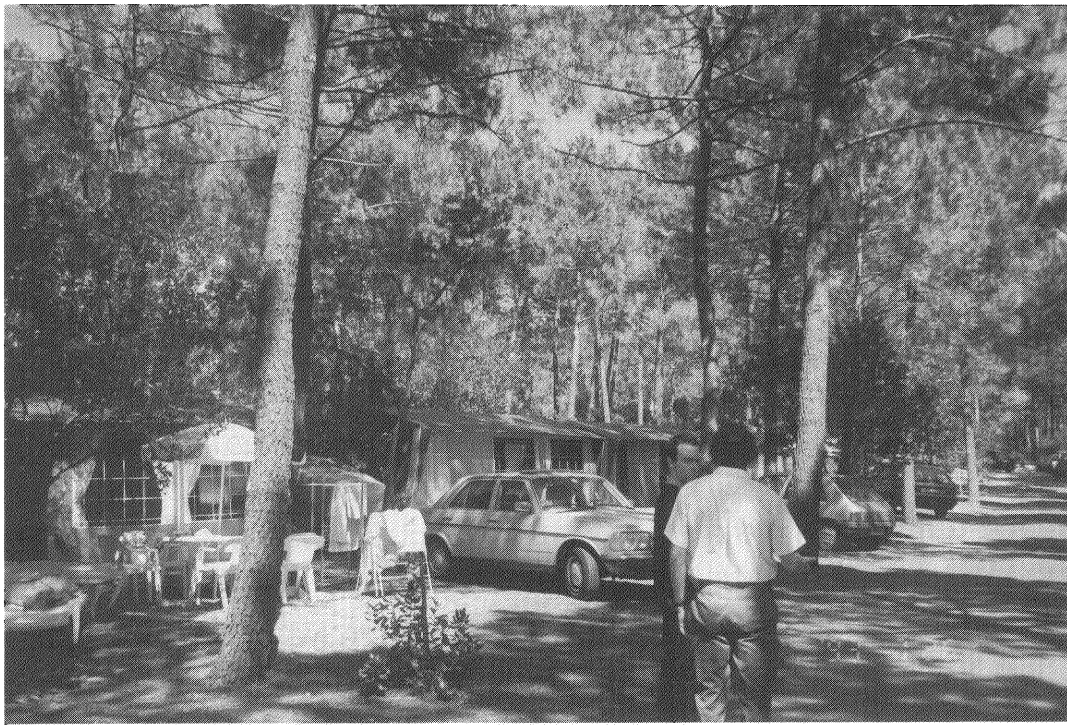
第二の目的は次のように言い換えられる。

- － アルカッション湾の下水道計画の事業実施への参加：特務機関は、100km近くに渡って湾を取り巻く幹線下水道の設置に2,000万フランを充当した。
- － 道路・港湾といったインフラストラクチャーの改良、家庭廃棄物の処理工場の建設への援助。
- － テイクの鳥類自然公園やアルカッションのペレイール公園のような自然空間の整備。最後に、第三の目的は、レージュクラウェイの協議整備区域の実施とピレランールアンデルノの整備単位の検討がこれに当たる。

レージュクラウェイの事業は、カップ・フェレ半島における整備に関するものである。この整備は、42haの協議整備区域に広がるコミューン直営のキャンプ場と連携した5,000ベッドの宿泊施設センター、大衆観光向けのバカンス村、別荘目的の住宅施設群、スポーツ施設よりなる。

5,000ベッドのうち、2,500ベッド分のキャンプ場、850ベッドのバカンス村は完了し、また別荘目的の住宅施設群（総床面積20,000㎡、1,500ベッドのうち850ベッドは整備済み）、協議整備区域の一部を成すスポーツ施設は、ジロンド県とレージュのコミューンが財源の50%ずつを負担する混成事務組合により施工されている。

（※アルカッションについてはP53（3）伝統的沿岸観光地の高価値化 参照）



写真：カップ・フェレ半島の整備主要単位4内のル・トゥリュック・ヴェールのキャンプ場（写真上）とその見取り図（写真下）





写真：カイヨボチ。海浜への通路を限定し、海浜地域の自然保護を図ると同時にアクセスを容易にするための施設。（カップ・フェレ半島の整備主要単位4内のル・トゥリュック・ヴェールにて）

#### 整備主要単位7：ビスカロス、サンギネ（巻末地図3）

ビスカロスの沿岸地域では、現在までに、特務機関の技術的、財政的援助により1,000ベッドの収容力を持つコミュン直営のキャンプ場が整備されている。

面積60haの町有の土地の売却を予定した事業の整備計画は、近く完成する予定である。すなわち、

- － 集合あるいは一戸建て住宅のまとまりからなる5,000ベッド規模の観光客用宿泊施設。
- － 大西洋岸の海水浴場への観光客の来訪に備えた公共施設の整備。
- － ショッピング・センターの整備。
- － スポーツ、遊戯、レジャー用の各施設の整備。

また、伝統的沿岸観光拠点の高価値化の計画は、1987年以来取り組まれている。

（※（3）伝統的沿岸観光地の高価値化、ビスカロスの部分P55参照）

カゾーサンギネ沼の東岸に位置するサンギネに関して、取り組まれた整備は次のようなものである。

- － 1, 750ベッドの収容力を持つコミュン直営のキャンプ場（ブルスタリックキャンプ場）の整備。ここは沼の北岸からやや離れた所に植林した面積40haの町有地であり、うち16haがキャンプ場に利用されている。この整備は、約10haの遊休地にレジャー用の簡易な宿泊施設群を建築することで充実強化される予定である。第一次の基盤整備事業が既に進行中である。
- － 沼の岸よりやや離れたところにある750ベッドの収容力を持つ町営のキャンプ場の改修、拡張、再整備。
- － 水上スポーツ場や海水浴場の利用に関連するヨットクラブ、駐車場、公共のシャワーなどの公共の施設の整備。

**整備主要単位 8 : ミミザン（巻末地図 4 参照）**

ミミザンは、古くから伝統的沿岸観光拠点の1つであり、既存の観光資源の改修が行われており、1987年以降は伝統的沿岸観光拠点の高価値化の計画による整備が導入されている。（※（3）伝統的沿岸観光地の高価値化、ミミザンの部分P55参照）

**整備基本単位 9 : 4) のケース・スタディ P 27 参照**

### (3) 伝統的沿岸観光地の高価値化

伝統的沿岸観光地の高価値化の政策は、1982年12月20日と1983年7月27日の国土整備省庁間委員会により、国家レベルで決定された。この事業計画は、第9次の国と各州間の大部分の計画契約の中に明記された。

この事業計画は、次の3つのカテゴリーに分けることができる。

- － 観光客と観光業者のための公共サービスを組織化し、発展させ、もって観光拠点の全体的な運営を改善し、みやげ物の開発を可能にすること。
- － 生活環境と既存の施設の改善、ことに公共空間の改善。(具体的には、観光上の主要道路への歩道の設置、広場等公共空間の整備など。)
- － 大衆向けの賃貸宿泊施設の開発、より具体的には観光客向けの家具付きアパート、余暇用の簡易住宅の開発。

アキテーヌ州においては、次の6つの観光拠点が対象となった。

- － ジロンド県においては、スラックとアルカッション
  - － ランド県においては、ビスカロスとミミザン
  - － ピレネ・アトランティック県においては、ビアリッツとサン・ジャン・ドゥ・リュズ
- なお、対象箇所決定の承認は、県レベルでは1987年3月27日(ジロンド県)、1987年3月31日(ランド県)、1987年4月3日(ピレネ・アトランティック県)のそれぞれの県議会、州レベルでは1987年7月24日の州議会、国レベルでは1987年10月5日当政策を担当する特務機関委員会でなされた。

このプログラムの経費は、ジロンド県、ランド県の4つの観光拠点に対しは税抜きで800万フランを上限とされ、バスク沿岸地域の2つの観光拠点に対しは1,400万フランを上限とされた。各プログラムへの財政支援は、特務機関が200万フラン、州が200万フラン、県は100万フランに定められた。さらにバスク沿岸地域のビアリッツ、サン・ジャン・ドゥ・リュズについては、それぞれ300万フランずつ、欧州共同体(現欧州連合)の沿岸地域統合プログラム(Programmes intégrés méditerranéens: P. I. M)の予算を活用することができた。

#### スラック

主要な事業は次のようなものである。

- － 観光・ワイン案内所の設置及び所長の採用による観光拠点の運営体制の強化。
- － 観光拠点の主要道路における歩道の再整備、近隣の公共空間(役場前広場、市場広場-place de Marché-)の再整備。
- － 観光目的の家具付き宿泊施設の改修。

## アルカッション

事業は次のようなものが中心となった。

- － 観光情報の提供とレジャー活動サービスの分野における観光運営の改善。
- － 市街地の主要道路への歩道設置、レジャー用港の全面的な改修、「冬の街（la ville d'hiver ※注1）」の中にあるモーレスク公園の改修と拡張の3つの事業。（これらは、観光客及び市民の生活環境をより良いものとした。）
- － 「冬の街」の中の家具付きアパートの改修事業
- － 既存のテニス関連施設の補修

※注1 アルカッションの市街地は、大きく2つに分けられる。1つはアルカッション湾沿いの商店街を含む地区、もう1つは丘陵地に広がる「冬の街」と呼ばれる主として住宅街、別荘地（ボルドー在住者の所有のものが多い）である。



写真：アルカッションの「冬の街」の丘より、海沿いの商店街を臨む。

## ビスカロス

事業計画は次のようなものを含む。

- － 観光事業の運営に関して、市場調査、既存の観光関連の組織の強化。
- － 公共空間の整備に関する2つの事業：ビスカロス市街地内の南ラテコエール地域、ビスカロス沿岸部の海沿いの小教会堂広場-place de la chapelle-の周辺整備。
- － レジャー用簡易住宅の事業。
- － スポーツ及び水上スポーツ関連施設の改修。

## ミミザン

次のような事業が計画された。

- － 観光拠点の宣伝とレジャー提供サービスを担当する特別な組織を設置すること。
- － 生活環境の改善。すなわち主要な道路への歩道の設置、海岸部及び海水浴場への進入歩道の整備。
- － 観光客用家具付きアパートに関する調査。
- － サイクリング道路、海上休憩所及び小型機用滑走路の改修。

## ビアリッツ

事業計画は次のようなものを含んでいる。

- － 既存の観光運営体制の拡充強化：観光案内板、観光情報の提供装置、コンピュータ化、市場調査。
- － 屋内テニスコートの設置、海洋博物館の改修、レジャー・センター及び乗馬センターの拡張。
- － 国際ホテル業専門学校の創設のための準備作業。



写真：ビアリッツ

### サン・ジャン・ドゥ・リュズ

事業計画は次のように予定されている。

- － 観光運営に関するもの：観光拠点の責任者の採用、観光宣伝とレジャー活動サービスの強化。
- － 観光施設「ペルゴラ」内の海洋療法（タラソテラピー）センターの建設に関連した公共空間の整備。
- － 4つの施設改修事業：水上スポーツセンター、海洋センター、屋内テニスコート、美術館の改修。